

Subject: 福島 貞観津波対応に対するNISA説明結果

From: [REDACTED]

Date: 2009/08/28 17:20

To: 東電 [REDACTED]

東電 吉田 昌郎

東電 [REDACTED]

東電 [REDACTED]

CC: 東電 土木調査 [REDACTED]

東電 土木調査 [REDACTED]

東電 土木調査 [REDACTED]

東 [REDACTED]

電 土木技術 [REDACTED]

東電 土木技術 [REDACTED]

東電 建築 [REDACTED]

吉田部長様
関係各位

本日、NISA名倉審査官に福島貞観津波への対応として、

- ・津波堆積物調査等事業者としても対応すること
- ・波源の合理的設定は電力共研～土木学会で検討すること
- ・結果的にバックチェック最終には間に合わないが、合理的に設定された波源に対して必要な対策は当然実施していくこと
- ・以上の方針に対して、東電から説明した有識者の了解が得られていることを説明、名倉氏コメントは下記のとおり。

・浜岡の津波クロスチェック（JNES）で、バックチェックでは考えていない、東海、東南海、南海3連動を考慮した結果、中部評価結果を大きく上回る結果となった→この扱いについては、バックチェックとは切り離し、余裕を考慮した津波への対処として中部が自主的に設備対策をする、という流れで動いている（公表されていない？：当初、中部はだいぶごねたがそういうことで落ち着いた）・・・取り扱い注意情報かと思います。

・個人的には、そういう扱い（バックチェックは確立された土木学会ベースでよい、貞観の扱いは、研究の進展で「余裕の確保」との観点で自主保安で対策を実施）になると思うが、試算結果でよいので、結果を教えてほしい、次回は小林室長にも同席頂く。

・JNESでは福島バックチェックの津波クロスチェックについて走り出しており、上記はNISA内でもよく方向性を検討して必要があればJNESの方向を考える。

・十分検討されていないモデルによる結果で運転中プラントがとまってしまふ、等という不合理なことを考える人はいないと思う。ただし、先生方がどう言うかだが・・・バックチェックでまともに扱うべき、との意見は暴論だと思うが、一方で、全く触れない、ということを通るかどうかは議論があるかもしれない。

以上

※：先日のK6再起動のお祝いの際、武藤常務から福島津波評価の現状を聞かれているので、小林室長を交えた協議結果を受けて、常務に状況説明を行います。

東京電力（株）原子力設備管理部

新潟県中越沖地震対策センター 土木調査グループ

mail: [REDACTED]

phone: [REDACTED]